

## 〈2009年度大学院スポーツ健康科学研究科博士論文要約〉

Summaries of Doctor's Theses Completed in 2008

生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動の要因に関する研究  
—社会的交換理論を援用して—The Study of Continuous Participation Behavior in Sport for All Events:  
Applying Social Exchange Theoryスポーツ社会科学領域 岡安 功  
論文指導教員 野川 春夫

## 1. 緒言

2007年2月から開催されている東京マラソンは、スポーツ振興だけでなく、地域・観光振興を目的にして開催されている。こうしたイベントを、生涯スポーツ・イベントと呼ぶ。生涯スポーツ・イベントについて山口(1996)は、スポーツ振興や市民レベルでの国際交流、そしてヒューマンネットワークの広がりなど様々な社会文化的効果が期待されていると指摘している。野川(2007)は、地域振興や観光地のテコ入れの役割も担っていると示すなど、経済効果も期待されている。

こうした中で、生涯スポーツ・イベントを、継続的に開催するためには、継続参加者をどのように増加させるかが、大きな課題のひとつである。しかしながら、先行研究では、継続参加行動を十分に説明できる理論的基盤が弱いのが現状である。そこで本研究では、スポーツ社会学やレジャー・レクリエーションの分野における継続参加行動を説明するのに用いられてきた社会的交換理論の下位理論に位置する資源交換理論を援用して研究を行った。また、投資の考え方に着目して研究を進めることとした。

## 2. 生涯スポーツ・イベントの今日的課題

現在のイベントにおける課題に関して、3つを挙げることができる。まずは、生涯スポーツ・イベントを、継続的に開催するためには、どのようにして継続的な参加者、つまりリピーターを増加させるかが大きな課題のひとつであるという事である。2つ目には、参加者がどのようにイベントを評価し、イベントにどのような価値を見出しているのかを検討する必要があるという事である。さらに3つ目としては、特定の生涯スポーツ・イベントへの継続参加を

促進する要因は何かという事である。

## 3. 研究目的

本研究は、社会的交換理論、特に投資の概念に援用して、生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動の要因について明らかにすることを主目的とした。また主目的を達成するために、3つの副目的を設定した。

副目的1：生涯スポーツ・イベントの先行研究について、社会的交換理論の視点から検証を行う。

副目的2：生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動の要因について、Foa & Foa (1974)の資源交換理論を援用した継続参加要因に関する質問項目の作成を行う。

副目的3：生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動の要因について、Morais et al. (2004)の資源投資モデルを適用して明らかにする。

## 4. 方法と結果

## 1) 副目的1の達成

生涯スポーツ・イベント研究における社会的交換理論の資源投資の援用の妥当性について明らかにした。GeNiiとSPORTDiscusから検索した過去20年間の主要文献約40編を解釈して、社会的交換理論の概念と照らし合わせながら、援用の可能性を考究した。

結果からは、参加者の継続参加行動について交換理論の命題に当てはめて解釈すると、説明する出来ることが明らかになった。

特に参加者は、ある特定のイベントに対して、継続参加行動を明らかにする上で、経済的な交換以外に、社会的交換理論を援用することは重要である。

さらに、社会的交換理論の中でも資源の交換に着目した Foa & Foa (1974) の資源交換理論の有効性が示された。この理論は、「愛着」「地位」「情報」「サービス」「物品」「お金」の6つの資源が提示されているものである。この理論を応用することで、資源交換理論の考え方を援用することで、より具体的に継続的な参加者の確保戦略が提案できる。

## 2) 副目的2の達成

Foa & Foa (1974) の資源交換理論の視点から、継続参加行動を明らかにするための質問項目の作成を行った。そして作成した質問項目の妥当性・信頼性を検証した。

本研究では、資源交換理論を援用して、どのような資源が参加者とイベントの間で投資されているのかを明確にした。富里スイカロードレースでの参加者への質問紙調査結果からは、イベント主催者側から参加者へ提供される資源は、「愛着」「地位」「情報」「サービス」「金銭」の5つがある事が明確になった。たとえば、このイベントは、親切であるという愛着や、このイベントは大切な参加者として対応してくれるといった地位も、この中に入る。

また一方、「愛着」「地位」「サービス」の3つの資源が参加者からイベント主催者に提供されることが明確になった。たとえば、この大会に好感をもっているといった愛着や、指示に従い、スムーズな運営に協力するといったサービスなどから構成される。

## 3) 副目的3の達成

生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動を説明するために、資源投資とロイヤリティを援用した Morais et al. (2004) の資源投資モデルの検証を行った。資源投資モデルとは、主催者側から参加者側への資源の提供と参加者側からの提供、さらに参加者のロイヤリティの一連の流れを示すモデルである。参加者への質問紙調査によって検証を行った。

本研究のモデルは、継続的な参加にいたるプロセスは、参加者がイベント側から様々な資源投資を受け、それに対して、参加者自身もイベント側への投資が行われる。しかしながら、単純に交換関係にあるのではなく、参加者は、特定のイベントへの忠誠心と言われるようなロイヤリティの向上につながり、さらに継続参加行動につながり、循環するようなモデルである。この研究では、2つ目の研究で開発した尺度を使用しながら、継続参加行動に関するモデル構築を行った(図1)。

資源投資とロイヤリティの関係を中心にして、継続参加

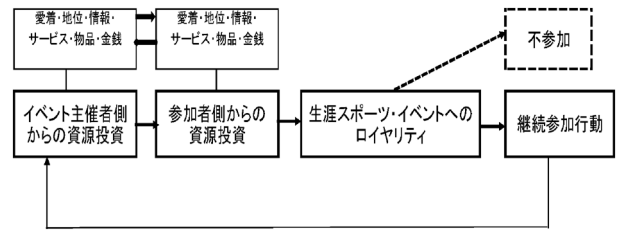


図1 生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動モデル  
(Morais et al. 2004に加筆・修正)

行動に関して資源投資モデルの構築を行った。四万十川ウルトラマラソンの結果からは、資源投資モデルは、日本の生涯スポーツ・イベントにおいて援用できることが共分散構造分析の結果、明らかになった。

## 5. まとめと結論

本研究の結果をまとめると、主目的である資源交換理論と投資の概念に着目しながら、生涯スポーツ・イベントへの継続参加行動の要因について検証することを達成した。最終的には、以下の3つの事が、結論として導かれた。

1. 資源交換理論だけでは、生涯スポーツ・イベントの継続参加行動を説明するには無理がある。
2. Morais et al. (2004) の資源投資モデルの修正モデルが、日本の生涯スポーツ・イベントにおける継続参加行動の要因を説明できる。
3. 生涯スポーツ・イベントへの継続要因には、ロイヤリティが重要な変数となる。

## 主要参考文献

- 1) Morais, D., Dorsch, M. & Backman, S. (2004) Can Tourism Providers Buy Their Customers' Loyalty? Examining the Influence of Customer-Provider Investments on Loyalty. *Journal of Travel Research*, 42, 235-243.
- 2) Foa, U. G., & Foa, E. B. (1974). Societal Structures of the Mind. IL: Charles C. Thomas.
- 3) Nowaga, H., Yamaguchi, Y., and Hagi, Y. (1996). An Empirical Research Study on Japanese Sport Tourism in Sport-for-All Events: Case Studies of a Single-Night Event and a Multiple-Night Event. *Journal of Travel Research*, fall, 46-54.